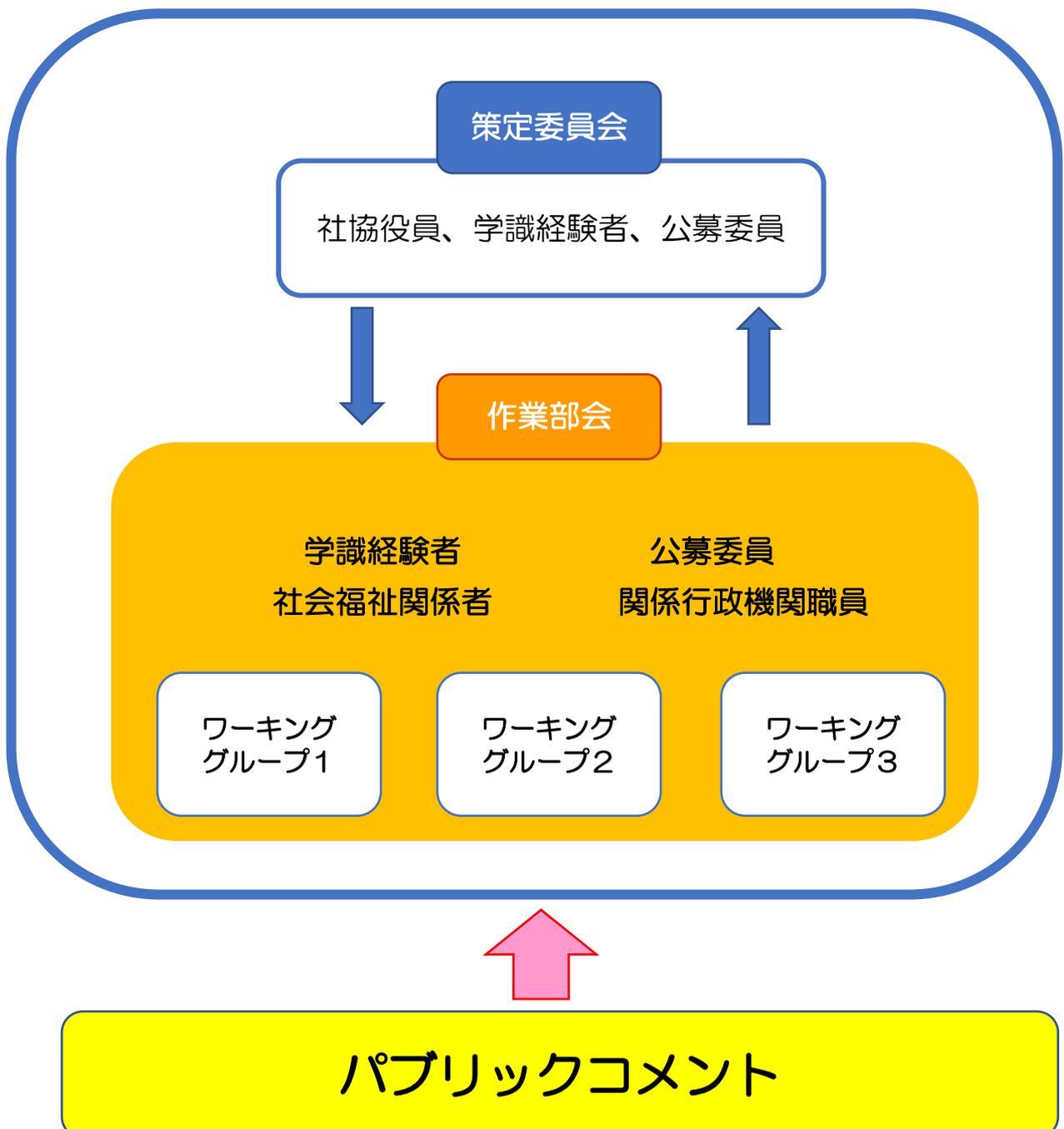


計画策定の体制及び議論の概要

第4次中村区地域福祉活動計画の策定にあたって、平成30年3月に本会役員、学識経験者、公募委員による策定委員会を設置しました。3月の策定委員会開催の後、活動計画の策定作業を具体的に行う「作業部会」を設けました。学識経験者1名の他、公募委員14名、高齢者や障がい者等の相談機関関係者7名、区役所の福祉、保健、防災等関係者5名に社会福祉協議会事務局の10名を加えた合計37名で構成されています。

さらに詳細の議論を行うため、作業委員を3つのワーキンググループに分けて、議論を重ねてまいりました。今回はその議論を中間報告「第4次計画の体系図(案)」として取りまとめ、区民の皆様にご報告させていただき、パブリックコメントとして広く意見の募集を行うものです。



各ワーキンググループの検討内容

<p>ワーキンググループ1 テーマ 「地域との接点づくり」</p> <p>あつまる・つながる</p> <p>例：コミュニティカフェ 地域の食卓 など</p>	<p>ご近所付き合いの希薄化が進み、またなじみの喫茶店等の閉店により、住民が気軽に「あつまり・つながる」場所が失われつつあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを望んでいるが、なかなかきっかけがつかめていない人。 ・これまでの地縁等がなく地域とつながることに消極的な人。 ・何らかの障壁により地域との接点を持ちづらい人、など。 <p>孤立しがちな人が参加しやすい、つながりのきっかけを作る取組みについて検討しています。</p> <p>老若男女・障がいの有無・国籍等を問わず、その人が役割を持ち、安心できる居場所づくりの取組みについて検討しています。</p>
<p>ワーキンググループ2 テーマ 「地域のご縁づくり」</p> <p>つながり・ひろげる</p> <p>例：住民と障がい者施設をつ ないだ移動販売など</p>	<p>全国有数の都心から古くからの住宅地までを擁し、多文化・多世代・様々な関わり(在住・在学・在勤)の人が暮らす中村区。これらの全ての人々が地域課題を「我が事」ととらえて、一丸となって福祉のまちを進めるにあたり、今まで福祉や地域づくりにご縁の無かった分野の業種、企業や団体、外国人などと新たに「つながり」巻き込んで「ひろげて」いくための取組みについて検討しています。</p> <p>その他、既存の取組みや人や団体を「つなげる」ことで新たな担い手へと「ひろげて」いくことなどについて検討しています。</p>
<p>ワーキンググループ3 テーマ 「協働の仕組みづくり」</p> <p>つながり・ふかめる</p> <p>例：住民・専門機関によるゴ ミ屋敷片付け 見守り など</p>	<p>超高齢社会を迎え独居高齢者の買物や通院などの日常生活、日常の見守りや情報弱者への支援など、制度では支えきれない個別の生活課題は山積です。また、ゴミ屋敷や引きこもり、8050問題など複数かつ複雑な困難を抱えて孤立している世帯への支援は、現場では待ったなしの状況です。これら複合化する個別の生活課題に対応するためには、地域住民と行政はじめ専門機関の多様で緊密な連携協働が不可欠です。住民と専門機関がしっかり「つながり」、協働関係を「ふかめる」ための取組みについて検討しています。</p> <p>その他、住民を中心に専門機関がつながった小地域ネットワークの構築や一体的支援などについて検討しています。</p>